

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター佐鳴台担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和7年7月2日（水） 13時30分～15時00分
2 開催場所	西部協働センター 202・203講座室
3 参加者	24名 委員14名（佐鳴台地区6名、城北地区8名）、関係機関10名
4 協議の内容	<ol style="list-style-type: none">開会挨拶 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 会長令和6年度 第3回協議体会議の振り返り<ol style="list-style-type: none">福祉教育的取り組み 幼いころから福祉への理解を深めることで次世代の担い手へ子どもたちに地域の見守りの一員になってもらいたい地域団体との連携 地域活動団体を把握・整理し連携できる可能性を探る小さな単位での安心ネットワーク（チームオレンジ的なもの） 認知症の方の行方不明やオレンジシール・メールについての周知地域での見守りエピソード<ol style="list-style-type: none">困りごと相談のチラシを配布（町内の回覧板、HPにも掲載）シニアクラブ欠席者への安否確認はな葬の取り組み（店舗にトイレ休憩所のぼり旗の設置やコミュニティの場）駄菓子屋の閉店（子どもの居場所がなくなった）協議事項（グループワーク） テーマ①地域団体についての活動・実態・見守り 【佐鳴台】<ul style="list-style-type: none">シニアクラブは1丁目～4丁目にあるが、5、6丁目には活動がない。若年層の参加が少なく、担い手が固定。さわの会の会員60名。80代が中心で60代はわずか。途中入会を敬遠する傾向も家事支援やサロン活動を通じた見守りができており、間接的な安否確認の機能を果たしている。地域祭りへの関心は限定的。イベントが「浜松祭りをやりたい人だけのもの」になっている懸念も。【城北】<ul style="list-style-type: none">蜷塚三区「なごみの会」は現在5～6名。以前より人数減、新規参加はない。

- ・城北北では自治会の活動が要で、オープンな会にしないと新たな参加者は難しいとの声。
- ・追分では自治会内の関係団体一覧を作成しており「薄いつながり」でも意味があると認識。
- ・見守りは「さりげなく」「誰か一人に依存しない仕組み」が必要との意見があった。

テーマ②高齢者のとじこもり（何らかの原因で外出できない人・外出しない人）

【佐鳴台】

- ・外出できない理由として「免許返納・体力低下・交通の不便さ」が挙げられた。
- ・男性は車に乗らなくなると出なくなる傾向がある。
- ・とじこもりのパターン①昔からとじこもり②途中から地域と疎遠（2人だった時は出ていたが1人になった途端出づらくなってしまったとか何かをきっかけとして）③転入など周りに知り合いがいないケース。
- ・介護サービスや包括の存在が十分に知られておらず、周知が必要。
- ・「あれ？」と思ったら声かけ、必要時には包括へつなぐ体制を地域で共有する必要がある。

【城北】

- ・地域と関わりたくない、自治会に入りたくない人もおり、それを「困った引きこもり」とは捉えない姿勢が重要。
- ・支援は「本人の意思を尊重し、柔らかく関わる」ことが求められている。
- ・公園や地域行事の減少により自然な交流の機会も減っている。
- ・個人情報の壁により「誰が困っているか分からない」。

6. 地域包括支援センター佐鳴台より

- ・近々、小学校での認知症サポーター養成講座を実施する予定
- ・小さなネットワーク 地域への愛着がある方
↑これをアピールすることもあり
- ・地域への愛着→次の世代に新たなアピール

7. 事務連絡

- ・生活支援体制づくり協議体委員報酬の支払いについて
- ・第2回佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体会議

日時：令和7年11月

場所：西部協働センターまたは佐鳴台協働センター

8. 閉会 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 副会長

5 今後の見通し・ 必要な対応

【共通課題】

- ・地域団体の担い手不足や高齢化、若年層の不参加傾向
- ・高齢者のとじこもりが多様化（免許返納・喪失体験・体力低下・交通不便など…）
- ・特定の人たちで成り立つサロンや団体の継続が困難になってきている

① 地域団体

- ・地域団体（サロン・協働センター）へ出向き、活動内容を把握し一覧化（見える化）
- ・若年層等への声かけの工夫

② 高齢者のとじこもり

- ・「気になる人」を早期発見する工夫
- ・男性向けのサロンの検討
- ・包括・介護サービスの周知（回覧板・掲示するなど…）

③ 見守り

- ・「さりげない見守り」の地域内共有（声かけ・挨拶）
- ・家事支援・サロン活動や地域の行事での見守りの強化
- ・本人同意が前提ではあるが、「気になる人・さりげない見守り」に関する台帳等を検討していく。